

第二次審査（論文公開審査）結果の要旨

Evaluation of a Tool that Enables Cancer Patients to Participate in the Decision-Making Process during Treatment Selection

がん患者の治療選択における意思決定支援ツールの評価

日本医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野
研究生 中鉢 久実

Journal of Nippon Medical School, volume 88, number 4, 2021 掲載

DOI: https://doi.org/10.1272/jnms.JNMS.2021_88-401

がん患者の治療に関する意思決定への参加が近年推奨されている。医師と患者の関係が意思決定に大きな影響を与えることや治療方針決定への患者の参加は治療への満足度を高めるとともに治療選択に対する満足度は健康状態に好影響を及ぼすことが報告されている。しかしながら、患者を意思決定プロセスに参加させるための最善の方法についてはコンセンサスが得られておらず、病気の進行度によって意思決定の嗜好が多様であるがん診療の現場では、患者それぞれの意向を評価する必要がある。今回、がん患者が治療法の選択に関して情報を得ることを容易にし、医師とのコミュニケーションを向上させるための意思決定支援ツールを開発し、意思決定支援への有用性を評価した。

2013年11月から2014年4月までに日本医科大学付属病院呼吸器内科に初回治療のため入院し確定診断がなされた20名のがん患者を対象とした。入院前に14の質問項目からなる「治療選択に関するチェックシート」(以下チェックシート)を患者および家族に配布し、入院後に入院担当医が記載されたチェックシートを参考にしながら病状や治療の説明を行った。退院時にはチェックシートの有用性を評価するための質問票を患者に配布した。担当医には、チェックシートを使用して説明を行った質問票を配布し、担当医側からの評価を行った。本研究は日本医科大学付属病院倫理委員会の承認を得て行った。

20名の患者背景は、肺癌19名/胸腺癌1名、年齢中央値65.5才、男性17名/女性3名、臨床病期はIIIB以上の進行癌が15名、予定されていた治療は術後補助化学療法5名/化学放射線療法5名/放射線療法1名/化学療法9名であった。20名全員からチェックシートを回収した。20名のうち退院時の質問表に回答のあった14名全員が、チェックシート使用が意思決定支援や医師への質問への助けになったと評価したが、1名はチェックシートの記載に関して不快感があったと回答した。質問票に回答した3名の担当医は、チェックシートの使用により患者が自分の考えをまとめることができたことや医師との円滑なコミュニケーション

ンに役立つという評価であった。一方、チェックシートを用いた診療は業務上の負担が増えるという意見もあった。以上より、本研究で使用したチェックシートは医師、患者双方から意思決定支援ツールとして有用であると評価され、患者満足度向上やがん診療の質向上に寄与する可能性が示された。

がん患者を対象とした研究では、治療前に患者の希望を理解することが信頼関係構築に重要であり、医師-患者間の信頼関係の形成が選択した治療の満足度を向上させると報告している。チェックシートを使用することで医師・患者間の情報共有が出来れば、治療選択に関する満足度の向上に繋がると考えられる。今回の研究は、全ての工程を医師が行ったが、通常診療における負担増加が危惧される。今後実臨床での導入に関しては多職種連携が必要であり、質問への回答率上昇や質問の意図が理解できない事から生じる不快感の改善に繋がることが期待される。今回の研究の限界は20例という症例数の少なさであり、チェックシートの有用性を十分に証明することができなかった。今後は症例数を増やし、他職種の支援を得た上での複数の癌種の患者を対象とした研究が必要と考える。

第二次審査では、20名の患者の選択バイアス、チェックシート使用による患者の治療方針変更の有無、家族の関与、多職種連携、分子標的薬治療などを対象としたチェックシート、今後の研究の展望、などに関する幅広い質疑が行われ、いずれも的確な回答が得られた。

本研究は、がん診療の質の向上に寄与するがん患者の意思決定支援に関する新規ツールであり、今後の臨床応用が期待される意義ある論文と考えられた。

以上より、本論文は学位論文として価値あるものと認定した。